



明るく たくましい 明世の子

ビカリア

令和6年度
瑞浪市立明世小学校
NO. 11
R7. 1. 31

困難をのりこえる力を

あきよ山で、崖を滑り降りて遊ぶ子がいます。基地をつくることを楽しむ子もいます。日光に当たるだけでも、脳や体の成長につながるそうですから、斜面で仲間と遊ぶことはさらによい影響があるに違いありません。時には、転んでけがをすることも、それまで一緒に遊んでいた友人とけんかになることもあります。どれも、必要な経験だと思います。

サバ土を滑り降りるのは楽しいけれど、濡れているときは注意が必要になります。木登りの時は、枯れ枝に気を付けるようになります。私も、小さいころの兄弟げんかで、力を加減することを覚えました。今の子は、兄弟とでも同級生とでも、けんかの経験はあるのでしょうか。けんかの後には、謝ることや仲直りすることを覚えました。（教えてもらうことも、周りの人を見て覚えることもあったと考えられる。）また、けんかした相手を許すことや、距離を取りながら同じ場所で過ごすことも経験しました。

人が生活していれば、何らかの問題が発生します。ごみの出し方だけでも、集積場のルールを決め、当番を置くことにし、順番を決めるという、話し合いや調整が必要です。困りごとに耐えるたくましさも必要ですが、周りの人に助けを求める力、お互いに納得できる解決策を話し合って創り出す力もたくましさだと考えます。

その力のもとを、学校で学ぶのだと思います。ドッジボールばかりじゃなくて、ほかの遊びもしたいという意見について話し合ったり、大縄跳びが苦手でやりたくないという子に練習に参加してもらう方法を相談したりする場があるからです。そういう意見を主張する子も必要です。



世渡りに関することわざを見てみました。例えば「石橋をたたいて渡る」のは、一つの生き方です。でも、たたくのは本人です。本人がたたくから、手に痛さや硬さが伝わり安心します。たたいても一歩踏み出す勇気がない子には、誰かと一緒に渡った経験やほかの人が渡るのを見るといった経験が必要かもしれません。そもそも、触ってみないと石かどうか分からない、とも言えます。触ってみる、たたいてみる、足を一歩のせてみる、次の一歩を踏み出す、こんなにたくさんのことができて、「渡る」ことができます。

「危ない橋を渡る」のには手段を選んでほしいですが、「危ない橋も一度は渡れ」ということわざもあるし、「渡りに船」もあります。機会があっても船に乗らなければ渡れません。「渡る世間は鬼ばかり」というドラマが有名ですが、「…に鬼はなし」が本来のことわざです。渡る努力をすれば、助けてくれる情け深い人がいるという意味です。ドラマ名はプロデューサーが「相手のことを鬼だと思う自分がすでに鬼なんだ」という意味でつけたそうです。（産経ニュース 2017/9/10）子どもには、今、渡るべき橋（川）があるのであれば挑戦してほしいと思います。大縄跳びに怖くて入れなかった子も、何度も失敗をしながら跳べるようになります。転んだり失敗したりすることを、そして、支え合い乗り越える経験をたくさんすることで、「案ずるより産むが易し」も使えるようになるのだと思います。